

令和5年11月6日 市長定例記者会見 会見録

◆司会

それでは、ただいまから、市長定例記者会見を始めさせていただきます。
市長、よろしくお願いいたします。

◆市長

はい。よろしくお願いいたします。

それでは、まず最初に、PFASへの対応についてお知らせをいたします。
11月1日に、市内河川や三井・ケマーズフロロプロダクツ株式会社清水工場の
周辺水路で実施したPFAS調査の結果と、今後の対応を発表いたしました。
その中で、「市が実施中の当該工場周辺の個人所有井戸5ヶ所における地下水の
PFAS濃度の調査結果については、11月6日以降に公表予定です」と、
お知らせをいたしました。この地下水調査についてですけれども、明日7日に
結果が判明することが確定いたしました。この地下水調査結果と、結果を踏まえ
た対応については、8日の14時30分から、私から説明させていただく予定
ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

次に予算についてです。11月補正予算についてです。資料が3種類あります。

「令和5年度11月補正予算（案）について」という全体版と、それから、
こういう「ポイント」ですね。それから、「概要」という細かい内容の入った
もの、この3つがあります。最初に、この「補正予算（案）について」という
短くまとめたものを基に、ご説明いたします。11月補正予算の規模ですけれ
ども、23億7,114万円、債務負担行為が23億6,535万円となります。一般
会計が9億2,326万円、特別会計が14億4,789万円となります。中身は「安全
安心の確保」と「地域経済の活性化」「子育て教育環境の充実」と、3つを柱に
編成しております。

事業概要については、「安全安心の確保」、項目だけ申し上げますけれども、

「巴川流域治水対策事業」「河川災害の復旧事業」、これは諸子沢です、「生活
排水処理基本構想策定業務（正しくは事業）」「病院群輪番制病院設備の整備事業
費助成」、こういうものです。

それから次のページ、「地域経済の活性化」ですね。これは企業立地等について
です。それから、3ページにありますけれども、「子育て教育環境の整備」で、
「城内中学校のエレベーターの改修」、「オクシズの放課後児童対策事業」、
こんなものが対象になっております。その他、施設の修繕費や法改正に対応した
各種システムプログラムの改修費を計上しております。

具体的な内容については、こちらのお手元の資料、「補正予算のポイント」、これ

に基づいて説明いたします。開いていただいて、1ページ目は今の予算の概要ですが、予算の規模としては、昨年度から比べて大幅に減額になっています。令和3年は201億、令和4年は207億の補正でしたが、これはコロナの関係でしたので、こんな規模になっております。今年はこの規模、一般会計では9.3億円という規模になっておりますので、例年程度ということになります。続きまして、「安全安心の確保」についてですが、巴川の治水対策についての「流域治水対策事業」というのを計上しております。これについては内容を少し説明いたします。ちょっと出していただいて、はい。それで、これは令和4年度、令和5年度と巴川の水害が発生いたしましたけれども、それに基づいて、緊急的な対策を検討していたところです。今までは「巴川の流域治水対策事業」ということで、市の分担と県の分担があるのですけれども、それについて説明しております。

次のページ、ちょっとごめんなさい。配付資料がありますね。こちら、配付されておりますでしょうか、「記者会見資料」というのはこれですね。はい。これで、今までどういふことをやっていたかということですが、令和4年度の台風15号で巴川が被害を受けたので、早急に対応できる事業、巴川の河床を掘削するとか、あるいは麻機の遊水地の整備促進とか、そういうことは時間がかかりますので、即効性のある対策がないかということで、検討してきました。それで今年の6月ですが、下川原の雨水貯留管において、この貯留管をもっと有効活用できないかということで試験運用してみました。それによって、この試験運用、今のポンプ排水を活用することによって、排水容量を増加することが、調整容量ですね。雨が降ってきた時に、貯留管だとか、あるいは調整池に貯める容量を有効かつ、もっともっと増やすということができるようになりましたので、それに基づいて、今回、ポンプの施設整備をするというものです。ちょっとこちらを見ていただいて、ちょっと小さいのでわかりにくい、この次の、下川原ですね。下川原の時に何をやったかということですが、普通は、こういうふうに貯留管に水が溜まって、いっぱいになってくると、もう入らないという状態になります。それで溜めたまま、これで降雨終了後に河川の水位が下がった時に排水をするという、こういう運用をしていました。

前回試験運用したのは、この降雨終了後に排水するのではなくて、この雨が降っている時に、河川の水位がまだ低ければ、ポンプを積極的に活用して、排水していこうというものです。そうすると、排水した分だけ貯留量が増えますので、そういう運用をするということによって、既存施設に対して運用を変えるだけで、貯留量を増やすということが可能になりました。10%程度は、この時でも拡大できています。これがあったものですから、今回、他のものもできるのではないかとということで検討したものが、これです。

次、これは今の調整池ですけれども、調整池もいろいろなタイプがあって、普段運動公園の様に使われているような、水が全然入っていないくて、カラカラのような調整池と、こういうふうに日頃は貯留されている調整池があります。ちょっと、図面、これですね。今回対象となるのは「弁天池」と「所川堤」ですけれども、ここにこういうふうに普段から水が溜まっています。(スライドを)戻してください。そうすると、ここに水が溜まっているものですから、その後に、雨が降ってきた時に調整容量はこれだけになります。これを今回は、ここにポンプが入っていないものですから、排水できない。ここに管が通っていて、ここに溜まったものは、この管を通して直接河川に入るというものです。今回の運用は、これは雨が降る前に大雨が洪水になりそうだという、洪水じゃなくて、大雨警報が出るような大きな雨が降る時は、あらかじめ、ここの貯留水量を下げます。池の水をもっと下げるということですね。ポンプで積極的に排水して、これを下げておいて、そこに雨が入ってくることによって、この容量が全体が使えるということになります。さすがにちょっと空にするわけにいかないの、全部とは言えませんが、かなりの貯水、今の貯留水量が使えるということになります。これは、この部分を下げただけですけれど、先ほどの下川原と同じように、これがまだ入っている時に、河川の水位が低ければ、ここからの排水だけではなくて、ポンプで積極的に川に排水をするということによって、これによってさらにこの貯留容量が大きく使える可能性があります。ここの、ここからもっと出したらいいのではないかとというのはあるのですけれど、ここから出る量というのは、河川のいろいろな計画で決まっていますので、これはいつでも出してよい量になります。これは河川の水位が上がってきているのですけれど、まだ余裕がある時に、その場の臨機の応用として出すというやり方になります。これによってどうなるかということですが、資料、これ細かいので、ここだけにしておきますけれど、お手元の資料で見ただけであればと思います。今までどういう計画になっていたかということ、静岡市と静岡県でこの貯留量を確保すると15.8万立方メートルを確保するという計画がありました。これには麻機の遊水地だとかそういうものは入っていないのですけれども、内水のところで、このくらい、内水、ちょっとわかりにくいですね。小さな調整池等でどうやって確保するかという容量でこういうふうに定められていました。これを今まで、静岡市がいつまでに、これを整備するかということですが、令和4年までに6万立方メートル、この辺りですけれども、6万立方メートルを確保して、そして、これから令和5年から9年で3.2万立方メートルを整備する予定でした。これを、この後、なかなかやる場所がなく、令和22年度まで、この計画、もともと静岡市がやるとされている10.4万立方メートルについては、令和22年度までかかるという予定でした。これを今回、運用を変え

ることによって、令和9年度に前倒しして、計画していた治水対策が完了することに、完了といいますか、確保できることになります。費用はほとんどかからない、ポンプの排水とポンプの設置と、それから運用の変更ということですので、このようにある種、ソフト対策によって、大幅に治水容量を増やして、治水に対する、水害に対する安全安心の確保を早期に図っていこうと、こういうものがあります。ちょっと長くなって失礼しました。

2番目が、2ページの下ですけれど、「河川災害復旧事業」、これは諸子沢で発生した地滑りで、河川が、いろいろな土砂が堆積していますので、これを取るというものです。

続きまして、3ページですが、これについては「生活排水処理基本構想策定事業」となっています。これは端的に申しますと、今、汲み取りし尿や浄化槽汚泥を処理する4つのし尿処理施設というのがあります。それとは別に、下水処理場があります。これらが、特に、汲み取りし尿や浄化槽の汚泥等を処理する4つのし尿処理施設が供用開始を30年経過して、大規模な補修が必要になってきます。これについて、これをそのまま回収するのではなくて、今ある下水処理場、この下水処理施設とうまく連携をさせることによって、より低い費用で、必要な機能を確保しようということです。この背景は、全体として処理量が減ってきていますので、今ある下水処理場に少し余裕が出てきていますので、その下水処理場をなるべく下水処理場の処理能力をなるべく活用して、この汲み取り等の対応をしていこうということができないか、という検討をしようというものであります。

それから、その下の「病院群輪番制病院設備整備事業費助成」というのは、二次緊急医療を担う病院が行う医療機器整備について、支援を行うというものです。二次救急医療を担う病院というのは、大変ご負担がかかっていますので、それに対して支援をさせていただくというものです。

次に4ページです。「地域経済の活性化」です。1番目は「企業立地促進事業費助成」ということで、静岡市内に立地してくださる企業に対して、インセンティブ、補助金を出して、立地をしていただこうというものです。これについて、今回2社が対象になりましたので、それについての必要経費を計上しております。4ページの下「スタートアップ支援事業」ですけれども、スタートアップ支援については、いろいろな形で重層的、多角的な支援を行っておりますけれども、今回は、スタートアップ支援というと、スタートアップをする人の支援みたいなということで、ちょっと言葉はよくなかったかもしれないのですが、中学生あるいは高校生の段階で、スタートアップを試みようという気持ちを持っていただくのが非常に大事だと思っています。静岡市は、他の政令市等に比べて開業率、新しく事業を始めようとする率が低いというような

ところがありますので、それに対して、やはり自分で、どんどん、どんどん新しいことをやってみようという気持ちを、中学生あるいは高校生に持ってもらうというのが非常によいのではないかと考えております。これはスタートアップを実際にやった方々に、いろいろなお話を聞くと、やはり中学、特に高校の時にそういう気持ちになったのが、後々スタートアップに繋がったという話がありましたので、そういった面で、こういった静岡市内の出身で、スタートアップでいろいろな展開をされている方々に来ていただいて、「私はこんなことをやりました」とか、「スタートアップ面白いですよ」とか、そんなお話をさせていただこうと思っています。

5ページになります。これは「庵原球場の整備事業」です。これについては、かねてからご説明しておりますけれども、ハヤテ球団が、庵原球場を本拠地に参加をしていただく。NPBに、参加をするということでもありますので、それに対して球場の改修が必要になりますので、それに対して必要な経費を計上しております。費用としては、3,000万円になります。

5ページは、「地域経済の活性化」の中ですが、市民文化会館の整備方法について変更いたしました。これについては、市民文化会館ですと、再整備ということで、創造的改修ということで進めようとしておりましたけれども、PFI方式、すなわち設計施工から管理運営まで一括で発注する方式ですが、これで行う予定でありました。しかし、建設資材等が非常に高騰しておりますので、当初140億円と言っておりましたけれども、160億円に増加するという見込みになりました。もう一度、何とか費用を圧縮できないのだろうかということで検討いたしました。その結果、ロビー等の改修、ロビーといいますかね、ホワイエというような、そこに来た方々が少し憩うような場所ですけれども、その改修を取りやめる等によって、既存設備のリニューアルを中心とした整備内容に変更いたしました。そうすると、リニューアルといいますか、維持補修ですね。耐震性が劣っている部分の改修であるとか、既存の機能をそのまま活かして、改修をする、補修をするという中身が変わりましたので、そうすると、設計施工・管理運営を一括発注していくという意味があまり小さくなりました。PFIで大事なことは、管理運営する人達の意見を聞いて、「こんな運営をしていきたいから、こんな整備にしたい」と。そうすると整備の段階で、それを踏まえて、設計と施工と整備ですね。そして、管理運営を一体にする。これが生きてくるわけですけれども、単純な補修といってもいいと思います。そういった事業に変わりましたので、その面で、設計・施工・管理・運営と一体ではなくて、それぞれ別発注するという方式に変えました。そのほうが、PFIで一括発注すると、どうしても全体ができる人を募集しますので、競争性が非常に少なくなってしまう。静岡市で最近行った事業でも、1社しか参加しないと

いうPFI事業ですね。1社しか参加しないというのが2つ続きました。大浜と、それから海洋文化施設ですけれども。そういうことで、もっともっと競争性を確保して、そして、より安い費用で、より良いサービスを提供するという体制に変える必要があるということで、PFI方式をやめて、設計・施工を一括、管理・運営を別発注とこの2つに分けて発注する方式に変えました。これに伴いまして、PFIでアドバイザリー契約をしていたのですけれども、それを途中でやめましたので、これが減額になります。それから、設備の設計の内容を変えましたので、それに対して再設計が必要になる部分がありますので、これについて増額となります。その結果、合わせて1,805万円の増加になるというものです。増加ということですが、実際にはアドバイザリー契約を途中でやめていますので、それは減額になります。減額ですが、7年度に支払う分だったものを、6年度に支払う予定だったものを、5年度に支払うので、今年の出費が出てきているというものです。

それから6ページは、「日仏自治体交流事業」です。これは、日仏自治体交流会議開催事業負担金ということで、カンヌは静岡、姉妹都市になっていますけれども、カンヌ市との、さらに連携を深めるということで、来年会議を実施しますので、それに対する費用を計上しております。

7ページですが、「子育て教育環境の充実」ということで、2つありますが、1つ目は、「城内中学校エレベーター等の改修事業」です。これについては、現在、葵区・駿河区にエレベーターが設置された中学校がありません。車椅子を利用する等、校内の移動時に配慮が必要な生徒は、清水区内の中学校へ進学する等、限られた選択肢の中から進学先を選ばざるを得ないということになっております。このため、葵区と駿河区のいずれからもアクセスしやすい所、それが城内中学校ですが、そこにエレベーターを設置して、移動時に配慮が必要な生徒が通学できるようにしたいというものです。

それから「オクシズ放課後児童対策事業」は、これは令和6年4月に、藁科地区の3小学校が統合いたします。中藁科小学校に統合されますので、それによって、学区が広域になります。そうすると、児童の通学手段は路線バスになりますけれども、授業終了後に帰りのバスが到着するまでに時間がかかる。その間の子どもの居場所の確保が必要になります。そのために、「放課後子ども教室」と「放課後児童クラブ」を一体化して、子どもたちの居場所を確保しようという内容のものです。これは債務負担行為となります。以上が予算の概要となります。それからもう1つあります。これは、「一般廃棄物のリサイクル処理推進のための許可制度の活用」ということですが、時間の関係で詳細には説明をいたしません。ぜひ、ご関心を持っていただいて、静岡市が、こういう一般廃棄物のリサイクルについて、積極的に実施しているということですので、何かの

機会取材、あるいは報道していただけたらと思います。少しだけ申しますけれど、一般廃棄物は家庭から出るものではなくて、民間事業者が排出する一般廃棄物です。具体的には、例えば木を剪定した時に出てくるものとか、そういったものになるわけですが、あるいは、生ごみですね。そういったものについて、今までは焼却場で燃やしていました。しかし、これを堆肥にしたり、あるいはバイオマスの発電原料に使いたいという声が、非常に社会として取り組んでいかないといけないことですから、一般廃棄物の処理業に関して、今まで新たな許可を出していなかったのですけれども、これは積極的に許可をしていって、そういった民間事業者が出す一般廃棄物のリサイクル促進をしたいというものです。

私からの発表は以上となります。ありがとうございました。

◆司会

それでは、まずは、ただいまの発表につきまして、皆様からのご質問をお受けしたいと思っております。ご質問のある社は挙手の上、社名とお名前をおっしゃってからお願いいたします。毎日新聞さん、お願いいたします。

◆毎日新聞

はい。毎日新聞です。「巴川の治水対策事業」についてなんですけれども、聞き漏らしたのかもしれないんですが、これまで22年度末が計画期間だったのが、9年に大幅に前倒しできることになったのは、今回運用という方法で事前放流という方法があるじゃないかということで、今回は0.4万m³、この事前放流を取り入れれば0.9万m³が対策、それで減らせるっていう、その0.9万っていうのを使えることになったことで、13年も前倒しできるっていう。

◆市長

そうですね。はい。今回は2つの箇所の整備ですけれども、0.4万立方メートルの整備ですけれど、それ以外にもいろいろ使うところがあります。例えば、先ほどの、これは、まだ、この今回の0.9の中に入れていませんけれど、ちょっと下川原を出していただくと、これですね。ここで今、下川原はポンプ排水できるようになっていますが、これを使っていなかったということですね。これ、今、2本じゃなかったかと思っておりますけれど、ポンプが今の台数より、例えば倍にすると排水能力は倍になります。そうすると、もっともっと、ここの容量が使えるということがありますので、そういった、まだまだ運用の工夫でできることはあります。したがって、今、私がここで申し上げたのは、令和9年度までの0.9万立方メートルに入れていませんけれども、さらに、こう

いった形で拡張できますので、まずは9年度までに、もともと22年度までにやろうとしていたことは、9年度で終わりますけれども、それで十分ということには決してありませんから、早めにもともとの目標は達成して、次の対策、さらに貯留量を増やせないか、流域治水という形で、巴川に水が入るのではなくて、周りで溜めて浸水を防ぐ、こういったことを進めていきたいと思っています。

◆毎日新聞

はい、ありがとうございます。

◆司会

その他いかがでしょうか。先に中日新聞さん、お願いいたします。

◆中日新聞

中日新聞です。清水庵原球場の改修費について伺います。今回は、防球ネットの高さの嵩上げだったり、フェンスの新設ですけども、薄暮ナイターをプロ仕様の明るさにしたり、あと座席を広くする、球速を測るスピードガンの新設などは、今後も市として進めていく方針ですか。

◆市長

はい。これから進めていきます。その時期については、予算の確保状況もありますので、今日、「いつまでにやります」とは申し上げられないのですけれども、できるだけ早く実施していきたいと思っています。今回、ここにもふるさと納税の活用もありますので、みんなで支えていく球団として、ふるさと納税もぜひお願いをしながら、そして市の予算も一定程度使いながら、早期の改修を進めていきたいと思っています。

◆中日新聞

ふるさと納税なんですけど、2,500万円程は、もう、すでに集まっているんでしょうか。

◆市長

はい。これは、もうすでにいただいております。ご寄付いただいております。

◆司会

その他いかがでしょうか。NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

はい。NHKです。清水庵原球場、この関係なんですけど、ふるさと納税、すでに、もう目途が立ってるとか、集まってるというふうなことだったんで、先日トライアウトも見に行かれてると思うんですけども、改めてこの改修にかかる意気込みと申しますか、それから、そのふるさと納税で集まったお金に対する、その反応への手応え、手応えの反応か、というふうなものについてお知らせください。

◆市長

はい。ふるさと納税について先に申し上げると、今のところ、今回の改修分はご寄附をいただいているのですけれども、さらに追加的な改修部分については、まだまだの状況です。これからハヤテさんと一緒になって、いろいろな形で、いろいろなところをお願いしてと言いますか、ここに新しい球団が誕生する意義、そして地域の振興にどのような貢献があるかということをご説明させていただいて、ふるさと納税、特に企業版ふるさと納税ですね。これの拡大を進めていきたい、ご理解をいただきたいと思っております。

で、もう1つは、すいません。

◆NHK

今回の改修への期待というもの。

◆市長

今回の3月までに改修するのは、これも安全対策ですので、これはどうしてもやっておかないといけないと思っております。これはプロ仕様ということもありますけれども、例えば、外野のフェンスのラバーが剥がれているとか、全体的に、なかなか維持補修が十分でないところがあります。そういったところは、ハヤテさんとの事業というのではなくて、一般利用としても必要なところですから、これは早めにやりたいと思っております。プロ仕様にするということについては、ふるさと納税、企業版ふるさと納税をお願いしたいところでもありますけれども、そうは言いながら、やはり早期に実施していかないといけないところもありますので、それについては、予算の確保もしていきたいと思っております。とにかく、やっとならトライアウトもあって、そして監督、GMも発表になって、なんとなく「こんなふう動いていくんだな」ということで、期待感が、皆さん高まってきたと思いますので、これからかな、これから積極的にお願いしたいと思っております。やはり、GMが決まっていなくて、監督が決まっていない状況だと、なんとなく「一体どんな球団なの」という感じで、皆さんちょっとおよび腰と

言いますかね、ちょっと躊躇するというところがありますので、これからそういったことで選手も決まってきたりすると、「じゃあ応援してやろう」という感じになってくると思っていますので、そういった点で、ふるさと納税も含め、地域の、あるいは全国からの応援をお願いしたいと思っております。

◆NHK

もう1つ続けて、ちょっと別件ですいません。諸子沢の方なんですけれども、先日、対策委員会が現地を見に行きました。ちょっと県との分担というものもあると思うんですが、調査の方に時間がかかって、今避難してる人達がなかなか戻れない的な話が出てたと思うんですけども、市として何かこれ、今回の改修含めて早くできるようなことってないでしょうか。

◆市長

改修については、やはり不安定な土砂が残っていますから、安易に「大丈夫ですよ」というのは言えないと思っています。そうは言いながら、今、避難されている方々は、これから冬になるということもあり、あるいは避難先、避難期間が長期になるということで、精神的なご負担も非常に高まってくると思いますので、どういう方法がよいのかということは、具体的にお伺いをして、「何をお困りですか」とか、「どのような姿をお望みですか」ということを、丁寧にお伺いして、それについて、その希望になるべく応えられるような対応してまいりたいと思います。

今ある土砂の撤去とか、それについては予算の確保がどうしても必要で、国からの予算の額とかそういうこともありますし、それから対策方法、工法もなかなかそう簡単に決まらないということがありますので、そちらは急いではやりますが、急ぎながら慎重に対応してまいりたいと思っております。慎重にというのは安全性の確保をしっかりと保ちながら整備を急ぐ、こういう方針でやっていきたいと思っています。

◆司会

その他いかがでしょうか。静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

静岡新聞と申します。「市民文化会館の整備事業」の関係でお伺いします。先ほど、市長が内容の見直しで創造的改修で進めようとしていたのが、中略して単純な補修になったというような趣旨の発言がありましたけど、創造的改修つ

ていうのは当初の基本構想・基本計画の中では、創造的改修って掲げていたと思うんですけども、この基本構想、基本計画で掲げた、その基本的改修というものも、これも変更になるということでしょうか。

◆市長

ちょっと言い方がよくなかったかもしれません。創造的改修というところは変わりません。いろいろな面で「あ、変わったな」と思っていただけのような改修にはなると思っています。ただ、一部分を変更して、外側に外付けのロビーを作ろうとしていましたが、それをやめたというのが一番大きなポイントになります。それをやめたからといって、創造的改修が変わるわけではないと思います。一昨日も、あそこで、私も参りましたが、全体にロビーも暗くて、いかにも老朽化した感がありますので、あれを取り除くことによって、入った瞬間に「ワーツ」と、こう、やはりああいうものは、感動が大事な文化施設ですので、感動というものが非常に大事ですけれども、やはりあその暗い状況を見ると、なかなか心が踊らないという状況もありますから、そういった点を改修すれば、見違えるような施設になる、そういう面で創造的改修になると思います。ただ、技術的には、耐震改修だとか、施設の仕様変更みたいな地味なことになりますので、そういう面では補修が中心になるんですけども、見た目では創造的改修になると思っただけのように、必ずしたいと思っております。

◆静岡新聞

あと、すいません。もう1点。想定する工事費なんですけども、これも140億円と言っていたのが160億円に増額する見込みとなったので、それは圧縮できないか検討したと。検討した結果、検討して、そもそも140億円以内に圧縮することを検討したということなんでしょうか。

◆市長

いや、金額にこだわらず、本当に、これは何をやらないといけないかということの一つひとつ詰めていきました。やはり、創造的改修にやるのであれば、「これくらいやっておかないといけないでしょう」というところで収まります。その中で特に抑えたところは、先ほどの外の外付けのロビーをやめるということと、それから外壁をかなり良いものにしようとしていましたが、そういうものをやめるということで、それについて、費用を抑えています。その一方で機能面、例えば、今女子トイレ、行列ができてお困りですけど、そういったものを、まず増設するとか、あるいは、回り舞台が、今、手動になって

いますけれど、それは電動にするとか、これからの時代、当然そうなるべきもの
ですけれど、そういったところは変えて、「あの施設を使ってみたいな」と
思って、観客側ではなくて、そこで、例えば公演をする方々が「やってみたいな」
と思えるような施設にする、それを確保するためには何をやらないといけない
かということ、一つひとつ丁寧に議論して、「これは要らないだろう」「これは
要るだろう」ということを詰めた結果、今のような圧縮になっていると、こんな
状況になります。

◆静岡新聞

すいません。それと、そうするといろいろ検討した結果、金額にこだわらないと
おっしゃいましたけど、140 億円程度で収まる可能性もあれば、140 億円を
上回ってくる可能性も、現時点ではあるということ…

◆市長

金額、そうとう圧縮して 120 億円程度に圧縮しております。160 億を 120 億に
圧縮していますけれども、その中に広場も取りやめていますので、それも入って
います。広場は、今は取りやめていますけれど、いずれやるかもしれないので、
これは増額の可能性がありますけれど、いずれにしても、金額的には元々は 140 億
の予定でした。これは令和4年4月だったでしょうか。そして、今年の6月に
今の物価の状況を見て、見積もり直したところ、160 億かかるということが
わかりましたので、これでは駄目でしょうということで、見直した結果、今は
120 億に、金額は圧縮しているという状況になります。

◆司会

はい。その他いかがでしょうか。朝日新聞さん、お願いいたします。

◆朝日新聞

朝日新聞です。今の質問に関連しまして、市民文化会館をある程度抑えてやる
ということになると、今、ご検討されてる、東静岡のアリーナっていうのが
1つ大きなシンボルタワーというか、マークとしてできる可能性があるので、
市民文化会館は別の役割として、ある程度金額を抑えつつ改修していくという、
そういうご判断をされていると考えていいんでしょうか。

◆市長

アリーナと市民文化会館は別物という考えであります。全く別物ということ
ではないですけれども、基本的には今の市民文化会館というのは、大ホールが

あって興行的な使い方をされていますけれども、中ホール以下は、市民の文化活動にとって極めて重要な施設ということで、まさに公共施設ですね。

したがって、全額市の負担でやる、こういう性格のものです。それで、興行については、アリーナと大ホールというのは少しかぶる所ありますけれども、大ホールは最大でも 2,000 人ですし、もしアリーナということになると、8,000 人とか 1 万人規模が、普通、今のアリーナの規模で言うところから、興行の内容も全く別のものになると思います。そして、アリーナというのは、スポーツ利用も中心ですし、あるいは大規模コンサートとか、あるいは平らな場所ですので、いろいろなイベントがなされます。市民文化会館の大ホールは、興行とは言いながら、大きな舞台があって、あとは観客席ですので、平たいところがあるわけではないわけですね。

したがって、アリーナと、この市民文化会館は別物という考えでおります。単純に、さすがに今の施設を改修するのに 140 億と言っていたものが、160 億になったでは済まないでしょう、やはり、もっともっと費用を圧縮しないとイケないだろうということで見直した、こういうことになります。

◆司会

その他いかがでしょうか。では、発表案件につきましては以上とさせていただきます。続きまして、幹事社質問に移りたいと思います。

静岡新聞さん、よろしくお願いいたします。

◆静岡新聞

静岡新聞です。幹事社から 1 問質問させていただきます。先日、国が、10月20日、国土交通省鉄道局幹線鉄道課が、リニア中央新幹線の全線開業後の東海道新幹線の静岡県内駅の増便の調査について発表しました。これについて、市長、当時アメリカに公務で出張されたということで、コメント、紙では出ていましたが、改めて受け止めをお伺いしたいと思います。

であの、続けていますが、調査結果は東海道新幹線の輸送量が 3 割減少して、余裕が生じた輸送量を活用することで、現状の停車回数が約 1.5 倍程度増加する可能性に言及したものです。輸送量が 3 割減少する具体的な根拠が示されていない中ではありますが、この増加イメージの現実性についてどう捉えているかお伺いしたいと思います。

さらに、増便したとしても利用客が増加しないことには、地域に経済効果をもたらさないわけですが、増便による経済効果を最大限発揮するために、静岡市として、JR 東海と連携し、観光資源の開発や企業誘致促進などに取り組む考えはあるのかも併せてお伺いします。

◆市長

はい。まず、停車回数等の予測の現実性ということですが、これについてはJR東海の丹羽社長さんも、「違和感はない」「あり得る範囲」とおっしゃっておりますので、現実性があるものなんだろうと思います。需要予測といいますか、停車回数をどうするかというところは、その前に需要予測が非常に大事になってきますけれども、かなり困難な作業になるものです。私自身もかつて需要予測、いろいろなことをやったことがありますけれども、前提の置き方であるとか、そういったもので非常に困難な予測になりますけれども、それをしっかりやっていただいたということは評価をしたいと思います。

そして、停車回数についても出していただいたので、それはそれで受け止めたい、評価という形で受け止めたいと思っています。その上で、停車回数の増加の効果ですが、これは非常にありがたい話ですが、一番大事なことは、今、「ひかり」と「こだま」が停車してくれているのですけれど、あまり降りてもらえてないんですよね。ですから、皆さん、お乗りになった時にわかると思いますけれど、「ひかり」は、今ほぼ満車状態といいますか、特にインバウンドが増えて、ジャパンレールパスの関係で「ひかり」の利用は増えていきますので、非常に混んでいます。混んでいるのですけれど、降りていただけないということですね。逆に考えてみると、ダイヤを編成する側がどういう判断をするかということ、停めて降りてもらえるから停めるわけですよね。ですから、停めた時に降りてもらえるような状態にするというのが、非常に大事だと思います。それは何もしない開業で、停車本数が増えるのを待つ必要はなくて、今この時点でそういう努力をしていかないといけないということですので、それは静岡市にとっても、あるいは静岡県にとっても、非常に大きな課題だと思って、という認識をしていますし、静岡県もずっとそういう認識を持っていると思います。

したがって、先のことについて、それは期待感を持って受け止めますけれども、先になったらどうかというよりも、今、この時点で「ひかり」と「こだま」が停車した時の乗降客数を増やす努力をやる。それは観光であるとか、経済の活性化だとか、そういうことをやっていくということが、非常に大事だと思います。

そして、結果として、今の状態で乗降客数が増えれば、それはさらに停めていただけるということもあり得るのではないかと思いますので、とにかく、さらに停めていただくことを前提とするよりも、とにかく、今ある「こだま」と「ひかり」の本数の中で、乗降客数を増やす努力をする。それで地域の経済効果を高めていくというのが、極めて大事だと認識しています。

◆司会

それでは、ただ今の幹事社質問に関連したご質問をお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。

◆市長

ちょっと訂正ですけど、回り舞台の電動化はちょっと取り止めています。それも大きいところですね。市民文化会館ですね。すいません、失礼しました。訂正いたします。

◆司会

はい。それでは、幹事社質問に関連したご質問よろしいでしょうか。では、その他のご質問があれば、お受けをしたいと思います。いかがでしょうか。中日新聞さん、お願いいたします。

◆中日新聞

中日新聞です。ちょっと前回の会見で、市長が発表された障害者相談支援事業の消費税を非課税と誤認していた問題で伺います。市は1億円あまりを負担するということですが、これについて国は、本紙の取材に自治体への周知不足を認めてますけども、市として、何か国に費用補填を求めるなどの考えはありますか。

◆市長

これは、今、ご相談させていただいている、というよりも相談、まだしていないと思いますけれど、中で、どういうお願いをしたらよいのかということ、今、検討しています。元々、これ、具体的に言うと、補助制度の中でやっている事業ですので、そうすると、消費税の部分はある種減額して事業を実施しているわけで、その減額された事業実施に対して、補助金が来ているということになります。それが、もし、その事業費が増えるのであれば、その分だけ補助金は増えていたはずで、それについて「何とかして欲しいな」というのが私の思いですけど、それは単なる私の思いですから、制度上そんなことができるのか、そして、もう過去の年度のお話ですから、それについて、それを、また増額というお話ができるのかということ、非常に厳しい問題もあると思います。したがって、我々としては、思いはお伝えをした上で、国としっかり相談させていただきたいと思っております。

◆中日新聞

何か県内の自治体でも、この問題で混乱が広がってまして、税務署に聞いたら、非課税と言われて、という自治体もあるんですけど、静岡市の場合は税務署に過去に相談する等した経緯はあるんでしょうか。

◆市長

どうでしょう。何か確認をした、そうでしたよね。そこは、あまりちょっと言いにくいところですので、ちょっと申し上げにくいところです。国税さんと、厚労省でいろいろなお話があった中で、ということですから、我が方も、静岡市も勝手に何か決めただけではなくて、ある程度相談させていただいての結果ですね。勝手に思い込んでいたわけではなく、ある程度相談させていただいたという思いはあります。ただ、具体的などころはちょっと申し上げにくいところです。

◆司会

その他はいかがでしょう。はい、静岡朝日テレビさん、お願いいたします。

◆SATV

静岡朝日テレビです。今週金曜日にドリプラに新しい施設がオープンするかと思うんですけども、このオープンでまた清水のまちっていうのも、さらに盛り上がっていくかと思うんですが、市長としてはどの様に盛り上げていきたいというビジョンというのがありますでしょうか。

◆市長

はい。あれは、県の副知事をしていた時から非常にこだわっていたものです。ドリプラの新しい施設にこだわっていたのではなくて、ドリームプラザの辺り、防潮堤がないんですね。防潮堤を整備しないと、安全安心が保てない。背後にドリプラの商業施設だけじゃなくて、背後に住宅地がありますから、どうしてもドリプラの前か、道路側に防潮堤を作らないといけません。防潮堤の高さが2m近くになりますので、それを作ると景観をどうしても阻害する。あるいは海との一体性を阻害するということで、どういう防潮堤にするかというのをずいぶん議論しました。それで、当然、そこで事業をされている方とも議論して、今の建物は防潮堤と一体となった建物になっています。

そして、防潮堤の海側は公園になっていて、その公園、これは、県の事業でやっていますけれど、その公園の景観設計も、ものすごくこだわっています。それにいろいろ指導してくださった先生がいて、例えば階段を上がっていくと、

その正面に富士山がパッと見えるような景観とか、景観設計を徹底的にこだわっています。したがって、防潮堤でこういう壁を作るのではなくて、建物と、それから前の公園が一体となって防潮機能を持たせるというようなことで、非常に日本の中でもモデルになるような、施設整備の仕方になっています。それで、今度は、こちらの商業施設の魅力が高まりますので、その商業施設の魅力と海側の魅力、公園もあり、海を楽しむ。それが一体となって、素晴らしい場所になると思っています。さらに、その先も、そういった形で、景観に徹底的に配慮した防潮堤ですね。具体的に言うとアクリル板を多用したような防潮堤だとか、そういう向こうが見えるような状態ですよ。そして、防潮堤つくる時に景観配慮とよく言うんですけど、景観配慮ではなくて、新しい美しい景観を作るというやり方で、あそこはドリプラの新しい施設のところは作りましたので、そういう面では、非常に期待感を持って受け止めています、まだ見ていないので楽しみですね。

◆SATV

ありがとうございます。同じ地区には海洋文化施設の建設も予定されていると思うんですが、現在そちらの進捗状況っていかがでしょうか。

◆市長

海洋文化施設については、展示内容を見直す、あるいはそのコンセプトも曖昧でしたので、考え方を明確にするということで、いろいろPFI事業者の方々とお話をさせていただきました。その結果、内容については大体こういう方向ということで決まってきました。まだ完全に決まってないので、確定はできませんけれども、以前よりは展示内容を魅力あるものになると思っています。具体的には駿河湾ですね。駿河湾の魅力を徹底的に活用しようということと、あるいはSDGsであるとか、海洋保全ですね。こういったものを、何か言葉で示すだけではなくて、具体的な行動ですよ。あそこのミュージアム博物館に行くと、そういうことの海洋保全意識が高まるような具体的な活動するような内容ですね。そういったものに今、見直しているところです。もうちょっと待っていただければ、内容も固まってくると思いますが、本田さん何かありましたら、大丈夫ですか。はい。本田副市長が中心になって見直しを担当してやっていただいています。

◆SATV

ありがとうございます。

◆司会

その他はいかがでしょうか。よろしいでしょうか。
それでは、以上で…。すいません、どうぞ。

◆SATV

はい。すいません。諸子沢の地滑りについて、ちょっと追加で伺いたいんですけども、2日に共産党の静岡市議団が、流出土砂にアスベストが含まれているか調べて欲しいといった趣旨の要望があったと思うんですけども、その際に市長は「調査する」というふうに発言をされていたと思うんですけども、具体的にどのような調査を、どのようなスケジュール感で行っていく予定でしょうか。

◆市長

はい。アスベストについては、これは元々懸念をしまして、役割分担として、県が調査するという事になっておりましたけれども、やはり住民の生命財産に関わる事ですので、早期に調査することが必要だと考えています。

したがって、今、すでに事業者の選定中といいますか、そういう段階に入っています。できるだけ早く調査結果を出して、どういう対策をするのか、あるいはまずは安全安心ですね。そして、必要があれば対策をとるということにしたいと思っています。

ただ、お断りしておきたいのですが、アスベストがあるというわけで、確定しているわけではありませんので、あたかもアスベストがあるということを前提にしたような、世の中へのそういう流布というのは避けていただきたい。あくまで調査結果を待った上で、対策する必要がありますので、早急に調査を、市として実施する予定です。

◆SATV

ありがとうございます。県の結果を持ってから、市としてまた新たにやっていくような形ですか。

◆市長

県はいろいろな対策の中の1つとしてやりますので、それではどうしても全体の調査の時間がかかりますので、アスベストについては、市が単独で即時に、その調査だけを独立させてやる、すぐ調査にかかれますので、そういうやり方を今、しようとしています。

◆SATV

ありがとうございます。

◆司会

失礼いたしました。それでは以上で本日の記者会見を終了させていただきます。
ありがとうございました。

◆市長

どうもありがとうございました。

◆司会

次回は11月22日の水曜日、午前11時からの予定となっております。
よろしくお願いいたします。